

AAC

AICHI ARTS CENTER

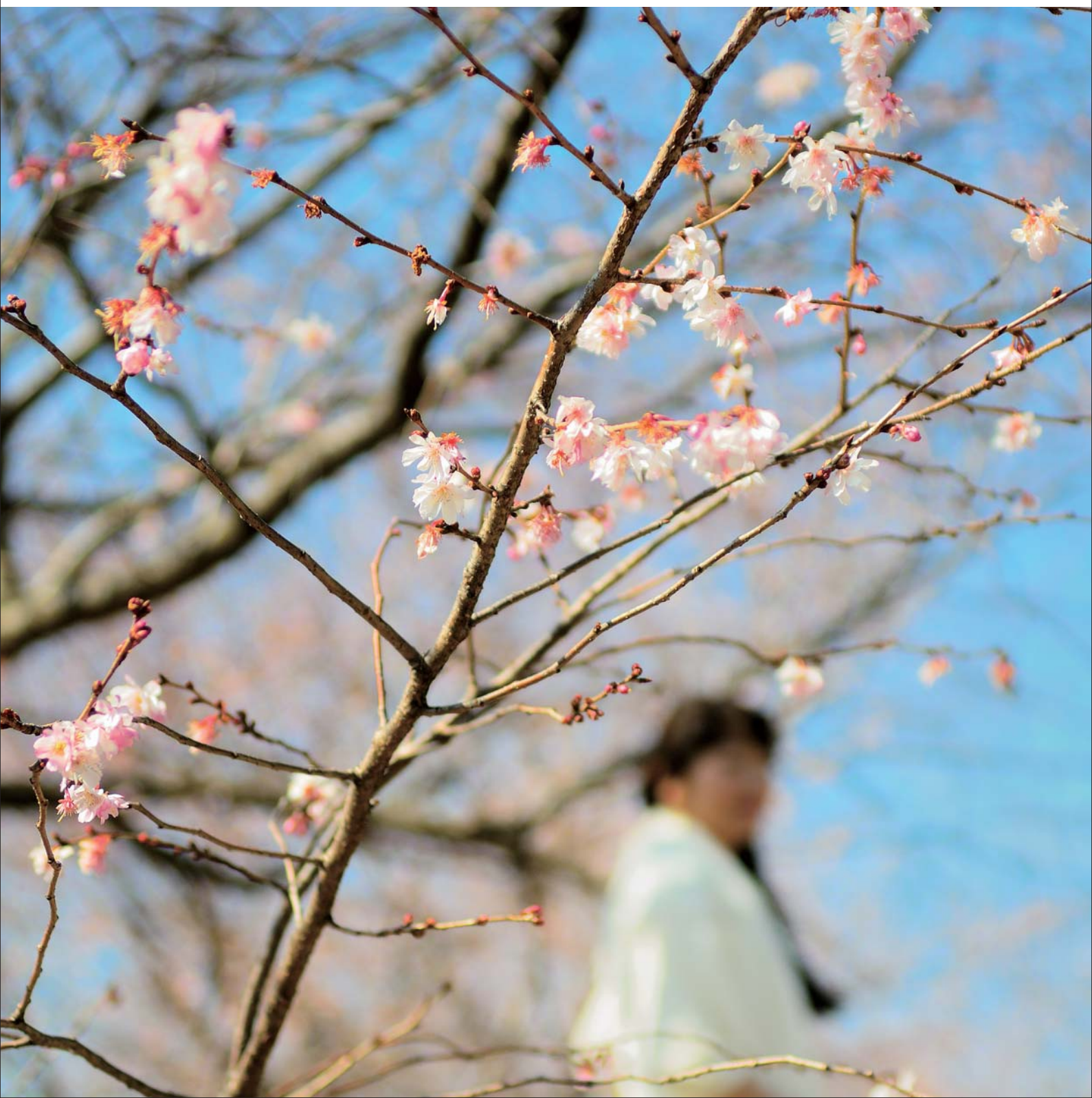
アートを読む、あいちを読む

2015/vol. 83
Spring

愛知芸術文化センター 情報誌

| 今号のキーワード |

春の到来——2015年度年間ラインナップ



詩と木版画に捧げられた青春

『月映』をめぐる3人の物語

取材・文・田中由紀子

毎年、夏と冬に東京国際展示場で開催される世界最大規模の同人誌即売会、コミックマーケット(通称「コミケ」)。昨夏に行われた「コミックマーケット86」では、3万5000組の参加サークルやアニメキャラクターに扮した2万人のコスプレイヤー目当てに、3日間で55万人もの入場者が押し寄せ、会場は熱気にあふれた。オタクな印象もある同人誌だが、マンガや小説をとおした自己表現の場であることは、今も昔も変わらない。

今回、紹介するのは、いまやポップカルチャーになりつつある同人誌の先駆けともいえる『月映』。1914年9月から翌年11月に、当時、美術学生だった田中恭吉、藤森静雄、恩地孝四郎が自作の詩と自刻の木版画をまとめた雑誌だ。病と闘いながら命を削るように木版と向き合った田中、最愛の妹を失った悲しみを制作の原動力に昇華させた藤森、『月映』に向けて制作する中で独自の抽象表現を見出していった恩地。3人がどのように共感し合い、その表現を極めていったかを、彼らの言葉から読み解いてみよう。

田中恭吉

私は運命の残酷さを元から知って来た。

(田中恭吉が美術学校の友人に宛てた手紙より)

田中恭吉(冬虫夏草)
1914年 木版紙
愛知県美術館



藤森静雄

あゝ今日もいたたましき日なり。

(藤森静雄の詩「妹は逝きぬ」より)



藤森静雄〈すすりなくたましひ〉
1915年 木版、紙 愛知県美術館

1891年福岡生まれの藤森は、19歳で上京。画塾で出会った田中と友情を交わす。東京美術学校西洋画科に入学後、藤森が「回覧雑誌めいたものをつくってはどうか」と言い出したことが「ホクト」制作のきっかけ。『月映』第Ⅲ輯の発行に向けて準備を進めていた1914年、最愛の妹が病死。藤森を思いやる田中の提案により、『月映』第Ⅳ輯は藤森の妹と4年前に亡くなった恩地の妹を追悼する特集号となる。妹を失った悲しみを乗り越えて、藤森は生きていくことの孤独を象徴的に表現し続けた。

恩地孝四郎

今、「月映」消え去るとも 私たちは亡び去るものではない。

(恩地孝四郎「別れのぞみて」公刊「月映」Ⅶ「附記」より)



恩地孝四郎〈望と布〉
1914年頃 木版、紙 個人蔵

1891年東京生まれの恩地は、3年続けて東京美術学校を受験し、西洋画科、彫刻科、再び西洋画科へと入退学を繰り返す。その理由を「学校より夢二学校の方を勉強したから」と語るように、抒情的な詩画で世を風靡した竹久夢二から影響を多く受ける。夢二を中心とした雑誌刊行の準備をとおして田中と出会い、『密室』に参加。日本で最も早い時期に抽象表現へと進む。田中の死により最後の号となった第Ⅶ輯に記されたこの言葉は、近代日本美術史に確立されることになる『月映』と、田中・藤森・恩地の功績を予告するものだった。

木版は、日本に於ける特別な藝術品で、ごびひます。

(『月映』創刊チラシより)

3人が東京美術学校に入学したのは、文芸雑誌「白樺」にゴッホの作品やムンクやカンディンスキーの版画など、西洋の美術動向が紹介され始めた頃。海外の美術動向や夢二の活動に触発された彼らが、洋画や日本画に収まらない新たな芸術表現として取り組んだ。

だが、自刻の木版画だった。浮世絵の流れから作画・彫りにゴッホの作品やムンクやカンディンスキーの版画など、西洋の美術動向が紹介され始めた頃。海外の美術動向や夢二の活動に触発された彼らが、洋画や日本画に収まらない新たな芸術表現として取り組んだ。



藤森静雄〈夜のビタリ〉
1914年 木版、紙
愛知県美術館



→公刊『月映』Ⅵ
1915年 和歌山県立近代美術館
→公刊『月映』Ⅶ SEPARATION
1915年 和歌山県立近代美術館

1892年に和歌山に生まれた田中は、画家を目指して上京後、画塾を経て東京美術学校日本画科に入学。美術学校の仲間内で話し合いをする回覧雑誌「ホクト」「密室」の制作に情熱を傾ける中、当時、不治の病であった結核に侵される。療養を続けながら『月映』刊行に向けて、木版画や洋画を制作するも、1915年10月に23歳で夭折。子供の頃に母と兄を失い、美術学校の友人をも結核で亡くした田中だが、自らも病魔に侵され、死への恐怖や不安と向き合いながら、植物や自然の生命の営みを表現した。



田中恭吉(焦点)
1914年 木版、紙
和歌山県立近代美術館



田中恭吉(月映のマーク)
1915年 黒インク、紙
和歌山県立近代美術館



愛知県美術館学芸員
塩津青夏

明治から昭和初期の時代にかけて、日本で刊行された版画の雑誌や同人誌はなんと100タイトルを超えます。そのなかでも『月映』は日本の近代版画美術の歴史を代表する雑誌。今回の展示会はまさにその刊行100周年を記念するにふさわしい、充実した内容になっています。

担当学芸員が語る
展示会の見どころ

『月映』展
—— 田中恭吉・藤森静雄・恩地孝四郎 TSUKUHAÉ
4月17日(金)～5月31日(日)

※会期中一部展示替えがあります
愛知県美術館

10:00～18:00 ※金曜日は20:00まで
(入館は閉館の30分前まで)
休館日:毎週月曜日(5月4日(月・祝)は開館)、5月7日(木)
一般900円 高校・大学生600円
※前売・団体は各200円引き ※中学生以下は無料

Check! 『月映』は第Ⅶ輯まで発行されたが、約200部ずつ機械刷りされた公刊『月映』とは別に、田中・藤森・恩地が1部ずつ持っていた手刷りによる私輯『月映』もある。現在では1部しか残されていない貴重な私輯が展示されるの見どころ。

Check! 本展を記念し、ミュージアムショップに『月映ジュレップ』が新登場。ジュレップはアメリカ南部に伝わるカクテルの一種で、ミントが入ったものが一般的だが、これには田中の故郷である紀州和歌山産の青梅が使用されている。

オペラのススめ



3月の公演にも出演する加賀ひとみ(メゾ・ソプラノ)、大山大輔(バリトン)、藤田朗子(ピアノ)

クラシック音楽ファン必聴!
音楽ジョークの連続!

シリーズ・トークの最終回(昨年12月5日)は、4つの音でオペラができる?というテーマで開催されました。冒頭、「この変なオペラをやりたいと言ったのは誰なんだ?」というところで、「4音オペラ」仕掛人の一人、福永綾子さんが登場しました。なんとと言ってもこのオペラ最大の特徴は、ピアノ伴奏も含めてD(ド)、E(シ)、A(ラ)、B(シ)の4音のみで作曲されている点。福永さんは、作曲家のジョンソン氏と個人的にも親交があるということで、作曲過程におけるこだわりや、考え方を紹介してくれました。後半の実演では、演出家と歌手陣がこの日のために準備した「4音オペラ(特別バージョン)」を披露。今まさに舞台上にいる歌手の心情や言動そのままの歌詞は、愚痴や不満のオンパレード(笑)。そこに、名古屋めしなどのご当地ネタが入って、笑いが起きないはずがありません!お客さまはもちろん、舞台の裏側を知るスタッフも大爆笑!ニヤニヤ、クスクスが止まらない一夜となりました!



聞き手・進行の広渡勲と、講師の福永綾子

これから観られる公演

「トム・ジョンソン作曲
《4音オペラ》
日本語版世界初演」
3月28日(土)
愛知県芸術劇場小ホール

中川賢一
現代音楽コンサート
7月18日(土)
愛知県芸術劇場小ホール

演劇のススめ



AAF戯曲賞公開審査会の様子



第14回AAF戯曲賞に輝いた水都サリホ

まだ誰も観たことのない舞台

昨年12月9日、『第14回AAF戯曲賞公開審査会』が開催されました。最終候補に残った5名の劇作家を前に「言葉で説明しすぎ」「表層を撫でている感じ」など、聞いているこちらまで胃が痛くなるような厳しい評が続く中、審査員からの絶賛を集めたのが、今回の受賞作品『茨姫』(作・水都サリホ)。審査員の鈴江俊郎さんに「欠点がないんじゃないか」と言われるほどの完成度でした。「今回、生まれて初めて自身の戯曲が上演されます」と、とつとつと語った水都さん。今回の作品は8月に三浦基さん(劇団・地点)の演出で上演されます。まだ誰も観たことのない舞台に、乞うご期待。

これから観られる公演

第14回AAF戯曲賞受賞作「茨姫」
眠り続ける女、水族館の魚、タイに行く男…。夢と現実が交錯する中、命の終わりが近づく。
8月13日(木)~15日(土)
愛知県芸術劇場小ホール

こんな公演も!

NAGOYAダイヤモンドズ「僕らの失速ラブソニー」
初心者が本気で挑む演劇に、俊英・はせひろいちが新作を書き下ろし!
3月21日(土・祝)・22日(日)
愛知県芸術劇場小ホール
お問合せ:名古屋演劇教室 TEL:0561-54-8984



「アーティストユニットD.D.によるインスタレーション」
12月6日~21日 Photo:羽鳥直志(3点と6)



「ヒート・ザ・ビート」12月21日



「辻本知彦&島地保武ダンス・ハンティング」
12月19日・20日

劇場のススめ

これから観られるイベント

フォーラム・プロジェクト
10月10日(土)~25日(日)
地下2階 フォーラムII

『あるく劇場』、最後の一日。
それは「あるく劇場」最終日の夕方。地下2階に突然ジャンベの打音が響きました。そこに加わるマリмба、クラリネット。足を留めたのは、コンサート帰りのご婦人方、デート中の高校生、買い物に来た親子連れなど、実に様々な人たち。人垣はみるみるうちに大きくなり、階段や上の階から覗きこむ人も…。最後は吹き抜け空間いっぱい拍手が満ちたのでした。
15日間で足を留めてくださった方は5800人あまり。『あるく劇場』、少しは皆さんの近くに歩いて行けたかな?



愛知県芸術劇場シニアプロデューサー 唐津 絵理



唐津プロデューサー、大阪に行く。

「もうダンスのこと「知らない」って言えなくなったあなたに贈るトークイベント。『20世紀ダンスのススめ』。昨年11月10日、唐津絵理が降り立ったのは、大阪市営地下鉄の西長堀駅。誰も来なかったらどうしよう、という唐津の心配をよそに、駅近くのacadastudioには、学生、バレエ講師、大学の先生などが続々と集まってくれました。現役のダンサーが多かったため、振付の構造や舞台の使い方など、マテックな話も飛び出し……。愛知・大阪ともフェイスブックやツイッターにたくさん感想を書いていただきありがとうございます。調子に乗って、また今回のような企画やりたいな、なーんて目論んでいたらして。

これから観られる公演

バットシェバ舞踊団
「Deca Dance—デカダンス」
10月7日(水)
愛知県芸術劇場大ホール

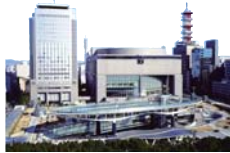
ダンスのススめ

Check!

7月には、リュック・フェラーリを特集するコンサートを開催。ピアニストの中川賢一さんには、ピアノの中に色々なものを仕込んで演奏していただきます。この奏法は楽器が痛みやすいので、ピアノを特別に準備します! (シニアプロデューサー: 藤井明子)

Check!

NAGOYAダイヤモンドズは、名古屋演劇教室の初心者向けワークショップの参加者による公演。小ホールの下見時には、今回初めて小ホールに入ったという参加者も。劇場スタッフの説明を熱心に聞く姿がとても前向きで、新鮮に感じました! (プロデューサー: 山本麦子)



2015年度年間ラインナップ

●美術 ●音楽 ●演劇 ●ダンス ●その他

2015年度に行われる愛知芸術文化センターの企画を、いち早く&一挙にご紹介!

各情報は、都合により変更する場合があります。

	2015 / 4	5	6	7	8	9	10	11	12	2016 / 1	2	3								
美術館	『月映』展 一田中恭吉・藤森静雄・恩地孝四郎 4月17日(金)～5月31日(日) 	生誕110年 片岡球子展 6月12日(金)～7月26日(日) 	芸術植物園 8月7日(金)～10月4日(日) 	コレクション企画 線の美学 10月16日(金)～12月13日(日) 	ピカソ、天才の秘密(仮) 1月3日(日)～3月21日(月・振休)	館長からの一言 美術館館長 村田眞宏 版画に青春を刻んだ『月映』、鮮烈な色彩の『片岡球子』、夏の『芸術植物園』はアートに森林浴、『線の美学』で線の魅力に震えて、最後はもちろん20世紀の巨匠ピカソ! どんな作品が出るかは、まだヒミツ! お楽しみに!														
大ホール	館長からの一言 「劇場は楽しいところであるべきだ」と思っています。楽しさは、大いに笑い、思いっきり泣き、心の底から感動すること。そしてそれは、同じ時間や同じ場所で多くの人たちと分かち合うことで、より“晴れやかなもの”になるのです!					ファミリー・プログラム ●アリスのクラシックコンサート「アリスのへんてこ舞踏会 ～Let's dance!～」 8月5日(水) ●ニッセイ名作オペラ2015「ヘンゼルとグレーテル」 9月19日(土) ●THE オルガンDAY 7月28日(火)		愛知芸文フェス ●名古屋二期会 オペラ「宗春」 10月24日(土)・25日(日) ●バットシェバ舞踊団「Deca Dance ーデカダンス」 10月7日(水)		●オペラ・ガラ・コンサート 11月3日(火・祝) 愛知県立芸術大学 管弦楽団 定期演奏会 11月27日(金)			●バレエとクラシック音楽の饗宴 1月13日(水)		●クリスマスはオルガンだ! 12月23日(水・祝)		●NHK交響楽団 定期演奏会 1月24日(日)		美術館 ● 連携コンサート 3月20日(日・祝)	
コンサートホール	ミニセレ -Mini Theater Selection-					●コンフェティ劇団「秘密のショートケーキ」 8月6日(木)～9日(日)		●ヴィクトリア・ティエレ & オーレリア・ティエレ「ミュルミュル ミュール」 10月21日(水)		●ストラヴィンスキー・トリプル・ビル 11月28日(土)・29日(日)		●第15回AAF戯曲賞公開審査会 12月5日(土)		●黒田育世ダンス・ショーイング 2月11日(木・祝)		●サウンドパフォーマンス・プラットフォーム 2月27日(土)・28日(日)				
小ホール	●地点「かもめ」 5月9日(土)～11(月)		●ニブロール「リアルリアリティ」 6月5日(金)～7日(日)		●中川賢一 現代音楽コンサート 7月18日(土)		●第14回 AAF戯曲賞 受賞作「茨姫」 8月13日(木)～15日(土)		●範宙遊泳「幼女Xの人生で一番楽しい数時間」 10月1日(木)～3日(土)		●東京現音計画 1月23日(土)		●マレビトの会「長崎を上演する(仮)」 3月下旬							
リハーサル室/他	●オペラ体験! 7月23日(木)・24日(金)		●小夙健太ダンス・ワークショップ 7月26日(日)・27日(月)		●現代音楽レクチャー① 6月24日(水)		●現代音楽レクチャー② 7月8日(水)		●フォーラム・プロジェクト 10月10日(土)～25日(日)		●黒田育世ダンス・ワークショップ 2月2日(火)～11日(木・祝)									

ファミリー・プログラム

初めての舞台鑑賞こそ妥協しない。上質な家族の思い出をつくろう。



日生劇場ファミリーフェスティバル2014
アリスのクラシックコンサート「5つの魔法の声」 Photo:三枝近志
劇場探検ツアー Photo:羽鳥直志
ジョニー隊長&ジョニー副隊長

愛知芸文フェス

胸を張ってお勧めする本格派の公演。ため息がこぼれるようなひと時の…。



オペラガラ・コンサート 愛知県芸術劇場合唱団 Photo:中川幸作

ミニセレ -Mini Theater Selection-

今、観てほしい作品! パフォーミングアーツ界の先駆者たちが愛知に。



地点「かもめ」 2014年公演より Photo:松本久木
ニブロール「リアルリアリティ RealReality」 Photo:Hidetoe Maetzawa

REPORT



担当の稲垣さんと、発案者の実習生たち

こちら/アートマネージメント実践編

愛知県芸術劇場では、アートマネージメントの実習生を受け入れています。2月某日には、「パブリックイメージリミテッド(2月13日～15日公演)」の劇中に出てくる「コンピュータージュ缶」のプレゼントを実施したい! という彼女らの発案が、ポッカサッポロ様のご協力のもと実現しました。



北九州から名プロデューサーを迎えて極意を拝聴

去る1月、愛知芸術文化センター・アートスペースにおいてアートマネージメント講演会が行われた。講師は、北九州芸術劇場の館長でありチーフプロデューサーである津村卓さん。津村さんは他にも長野県の上田市交流文化芸術センター・同市美術館館長や一般財団法人地域創造でプロデューサーを兼任する、日本で最も多忙なプロデューサーのひとりだ。そのお話が聴けるとあって、会場には舞台制作や文化施設に携わる人が多数集まった。

大阪出身である津村さんが北九州で仕事をすることになった経緯に始まり、これまで手掛けられた公演や企画の紹介、地域の人々や企業へのPRなどユニークな取り組みは多岐に渡り、講演は自ずと駆け足になるも内容充実。また、質疑応答では集客や人材育成などに関するリアルで切実な問題について意見が交わされ、誰もが共感し、少しでも明日からの活動に役立てようという想いが会場にあふれた。そうした支える人々の存在があつてこそ、この国の文化・芸術が花開くのだ。

あいちトリエンナーレ2016に先駆け豊川で開催された地域展開事業をレポート



豊川市桜ヶ丘ミュージアムの展示風景 (作品: 青木野枝)



豊川信用金庫旧いなり支店の展示風景 (作品: 加藤マンヤ)



古民家での展示風景 (作品: 平松伸之+伊東里奈)

あいちトリエンナーレ2016に先駆ける地域展開事業として、この冬11月2月、展覧会「豊穣なるもの 現代美術 in 豊川」が開催された。先ごろリニューアルオープンした豊川市桜ヶ丘ミュージアムをメイン会場に、豊川稲荷すぐそばの豊川信用金庫旧いなり支店と古民家でも展示を実施。合計30組の作品からトリエンナーレで味わった高揚感をひと足早く体験して、2016年がますます待ち遠しくなった。

桜ヶ丘ミュージアムでは、前回のトリエンナーレにも出品した青木野枝の彫刻と絵画など、24組の作品を展示。伊藤存十青木陵子の映像作品は、豊川市で出土した土器と並んでいたりして不思議な感覚に……。また、まちなか展開と同様、展示は美術館の外にも。豊川信用金庫だったビルでは荒木由香里や加藤マンヤ、セシル・アンドリュらが鮮やかな印象を残すインスタレーションを発表。また、元クリーニング店だった古民家を展示会場にした平松伸之+伊東里奈は、かつてそこにあったであろう光景を創造し、どこか切ない空間を出現させた。



ポッカサッポロフード&ビレッジ株式会社さんは、創業地であるナゴヤにむけて、「人」「体」「街」をテーマに、様々な応援・支援活動を展開されています。今回のご協力もその一環。詳細は「ふるさとナゴヤとともに。」で検索してみてください! (広報担当: 辻本哲朗)

【シンバルができるまで】



銅に錫(すず)を混ぜた合金=青銅を円盤型にのばしたものを釜へ。この後、水で急速冷却することによって、硬くなり過ぎず、割れにくいボディができる。なお、錫の配合率が音の高さに関わり、小出シンバルでは錫23%という商品も。これは世界最高値に当たる。



シンバルの表面を機械でハンマリングする様子。手でやった場合は音色が変わってくる。



手でやるハンマリングに広報・小出が挑戦。緊張を乗り越えて笑いがこぼれる!?



表面に溝を掘る様子。仕上げ方のひとつで、溝が細くなるほど倍音が豊かになる。



小出シンバルの特徴は、安定して「シャーン」といい音が響き、伸びも長い。



小出シンバルの代表取締役・小出俊雄さん(写真右)

見事つながった「小出」の輪! 小出シンバルの製作所を訪問

同じ名前のご縁から、広報担当の小出充訓が面白い情報をキャッチ! 大阪の「小出シンバル」が音楽業界で注目度を高めているという。そこで実際に現地を訪れ、シンバル製作のお話を聞いてきました!



左から小出篤さん、菅生知己さん、広報・小出です!

大 阪市平野区にある「小出シンバル」は日本で唯一のシンバル製造会社だ。広報・小出は以前から気になっていたが、近ごろ耳にする機会が急増。奇しくも名古屋フィルハーモニー交響楽団事務局長の小出篤さんから、同僚・菅生知己さんと小出シンバルとの情報もキャッチした。そこで縁が縁を招くと感じた広報・小出は突撃取材を……!

ご対応くださったのは代表の小出俊雄さん。小出製作所では

先代から「丸くて深さのあるもの」を加工してきたそうで、ビートルズやベンチャーが結成された60年代には初心者用シンバルを手掛けたという。ただ、本格的に「小出シンバル」を立ち上げてから20年に満たない。それでもジャンルを問わず評判は高まり、海外への輸出も順調。昨年から使用している淀川工科大学吹奏楽部などは全国大会金賞に輝いた。

「どういふものがいいかはわからないので、音楽家の方々にできたものを評価してもらいながら製品化しています。でも、好みは口で伝わりにくいんですよね(苦笑)」

そう語る小出さんはとても自然体。「こういうシンバルを作りたい」ではなく「要望に応えたい」という気持ちの強さから、本当に幅広く活躍させている。小さな町の製作所から世界へと技術が発信されている事実を目の当たりにして、もはや呆然とするしかない広報・小出であった。

名古屋フィルハーモニー交響楽団 菅生知己さんに聞きました!

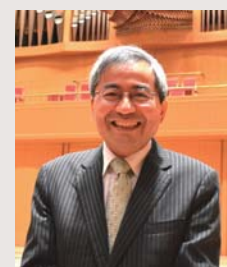


名古屋芸術大学で非常勤講師をしているのですが、10年ほど前に学生を連れて、小出シンバルさんの工場へ見学に行く機会があったんです。それがご縁で、クラシック用シンバルの製作・開発に関わることになりました。以来、一緒に試行錯誤を繰り返し、今では本当に素晴らしい楽器になりました。小出シンバルの魅力は言葉で表現するなら、「キラキラしつつも、しっかりとしたボディのあるサウンド」。世界的指揮者のKさんもファンの一人。

「この曲は小出シンバルで!」と指定してくるほどなんです。



既に一部の学校などでも使用されている小出シンバル。名フィルの菅生さんは、これが全国の中学・高校に広がれば、日本のプラスバンド、オーケストラの音が変わるとおっしゃっていました。(広報担当: 小出充訓)



鑑賞したのは…

『パイプオルガンとCORO Juniorのクリスマス』



2014年12月23日、サラマンカホール(岐阜県)

白い石造りの美しいレリーフで縁取られた客席扉をくぐり、オルガンと児童合唱のジョイントコンサートを聴きながら、どうしてこんなにも、日本でクリスマスが持てはやされるのだろう、と考えました。クリスマスは、ザビエルによりキリスト教と共に室町時代の日本へ伝えられ、現代では宗教行事というよりも、一つのイベントとして楽しまれている様子を多く見かけます。

一方、キリスト教の祈りに欠かせない楽器として伝えられたオルガンも同様で、現在はコンサートホールにも設置され、音色そのものに魅力を感じて楽しむ様子は、ある意味、音楽ファンとして純粋な反応でしょう。

サラマンカホールのオルガンは送風機以外が電気に頼らない構造になっていて、ストップの操作などが手動で大変ということですが、オルガニストの今村初子さんは各曲で音色の変化をうまくつけていました。

コンサートを鑑賞して出てくると、アトリウムでは地産品の直売が行われており、さらにピアノ演奏から抽選会と続いて最後はホールでのフルートコンサートまで、スムーズにスケジュールが組まれていました。イベントを楽しむ人々を見ながら、日本でクリスマスやオルガンが広まった訳が分かったような気がしました。

誌上
文化交流

文化施設に携わるスタッフが
お互いの企画を観て、感想をしたためました



鑑賞したのは…

『Xmasはオルガンだ! 2014』



2014年12月20日、愛知県芸術劇場コンサートホール Photo:中川幸作

ある年、私はオランダの小さな町でクリスマスをすごした。深夜0時、町の広場に建つ教会でのクリスマスミサ。人々が静かに待ちわびるなか、日付が変わると同時に響いた荘厳なオルガンの音色は今でも忘れられない。

この経験から「Xmasはオルガンだ!」のタイトルはまことに共感の極み。そして始まったプログラム1曲目。みなさんは愛知県芸術劇場コンサートホールのオルガンの真ん中にエンブレムのような「星」の飾りがついているをご存知だろうか? 1曲目のまさにクライマックス。何とこの「星」がくると回り始めた。この予期せぬ動きに何だかとても嬉しくなった。もしかして、これはホールからのサプライズ?

この「星」が回る瞬間をもう一度見たいと、コンサートの間じゅうわくわくドキドキ。確か、鈴が鳴り響くような華やかな音階と連動していたはず。そして迎えた最後の曲。待ち焦がれた音階が鳴り(ストップ名:ツインベルシュテルン)、まわるまわるよ「星」はまわる。オルガニストの三浦はつみさん! ありがとう。

私の勤務するサラマンカホールのオルガンには、木彫りで出来た3人の天使の飾りがついている。もしかしたら、この天使たちもクリスマスには踊り出すかも知れない。



広報担当:小出 充訓

編集後記

AACを担当して約1年。誌面構成や制作スケジュールの変更など、まだまだ関係者の皆さまにはご迷惑をお掛けしっぱなしです…。でも取材中にお聞きするお話は、魅力的で刺激を受けることばかり。そのすべてを皆さまにお伝えできればいいのですが、中には誌面の都合上どうしても載せられないものも。その「ネタ」たちは、劇場のFacebookページで紹介しています。そのほか、日々現場で起こっていることや、出演者の素顔、舞台制作の裏話からスタッフのこぼれ話なども。AACや美術館のブログとあわせてご覧いただくと嬉しいです。ぜひ「愛知県芸術劇場」で検索してみてください!

愛

知県芸術劇場には大ホール、コンサートホール、小ホールがあり、昨夏からそれぞれに支配人職が新設された。そこで3つのホールを代表して、コンサートホール支配人・富田顕生(とみたあきま)の一日を、紹介。支配人とは一体どんな業務を行っているのかお伝えしたい。

取材は名古屋フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会の際に敢行。当地が誇る楽団であり、当ホール利用回数も多いので、富田とも打ち解けた間柄だ。名フィル担当者の清水善(しみずよし)さんに尋ねたところ「主催者として、ホールの顔」と



愛知県芸術劇場
コンサートホール支配人
富田顕生

支配人の一日
コンサートホール支配人、
富田顕生の仕事に密着

A Day of the manager

13:15
[出勤]

公演が夜の場合、午後から始業のケースが多い。ホール入り前には申請書類を処理したり、報告書を作成したりと、事務作業にも忙しい。

16:00
[ホール入り]

主催者に変更事項を、舞台技術スタッフに準備やリハーサルの様子を確認する。

16:45
[打合せ]

主催者・客席案内スタッフ・舞台スタッフとともに打合せ。開場・開演・休憩・終演の予定時間、当日券の販売方法、途中入場の段取り、物品販売の有無、差入れの対応方法、ビュッフェ営業の有無……、その他にも確認事項がとて多い!

17:30
[ホール内外チェック]

各フロアのロビー・階段・客席・トイレに不備がないか確認。ホール外ではお客さまの状況を確認し、必要に応じて主催者に整列入場の依頼を出すなど、スムーズな誘導を心掛ける。

18:00
[開場]

ホール入口でお客さまをお出迎え。お尋ねがあれば支配人自ら対応も。

18:45
[開演]

公演が無事にスタートしたら、合間を縫って事務作業。もちろん非常時にはインカムで連絡が入ることになっている。

19:20
[コンサート休憩時間]

ロビーにて再び待機。コンサート後半開始まで、来場者の対応に当たる。

20:45
[終演]

お客さまのお見送り。すべてのお客さまが退館された後、落し物の有無の報告を受けたり、設備・備品の破損・紛失などの有無を確認。施錠・消灯して業務終了!!



当ホールを熟知した名フィルの公演だけに、打合せは余裕の表情……でもない!



名フィル担当者の清水さんと業務連絡。案外こういう時に本音のご意見が聞けたりするとか



今日も無事終演。明日もがんばります!

Check!

定期公演だけでなく、月に何度もコンサートホールをご利用いただいている名フィルさん。今年の夏には、大ホールで「アリスのへんてこ舞踏会」、オペラ「ハンゼルとグレーテル」にご出演いただく予定です。どうぞ楽しみに! (広報担当:加藤あかり)



舞台技術スタッフにも、こまめに声を掛ける



お客さまのご案内には警備員との連携も重要



富田です。了解。すぐに向かいます!



終演後のトイレも自分の目でチェック

FLOOR GUIDE

開扉：9:00 休館日：第1・第3月曜日(6月は毎週月曜日)、年末年始

- 総合案内
- レストラン
- 喫茶店
- 公衆電話
- やさしいトイレ
- 赤ちゃんコーナー
- トイレ
- 連絡通路有

12F **アールスペースA~H
屋外展示スペース**

(11F) **展望回廊**

10F **美術館(所蔵品・企画展示室)
屋外展示スペース
ミュージアムショップ**

(9F)

8F **美術館(ギャラリー)A~J**

(7F)
6F **回遊歩廊**
(5F)

4F **コンサートホール**

(3F)

2F **大ホール**
西玄関・南玄関 オアシス21連絡橋 NHKビル連絡口

1F **アートライブラリ**
正面玄関 ※3月2日(月)~19日(木)は整理休館いたします。

(B1) **小ホール**

B2 **アートプラザ アールスペースX
リハーサル室**
オアシス21地下連絡通路

B3 B4 B5 **駐車場(アートパーク東海)**

INFORMATION

愛知芸術文化センター「メールニュース」登録受付中!
美術館、劇場の情報をEメールで配信中!
ホームページからご登録ください。

愛知県芸術劇場ダイレクトメール会員募集中!
情報誌AACや主催公演情報、先行予約などのご案内をお届けします。
登録費・年会費無料
[申込方法]
必要事項を記入の上、郵送、FAX、Eメールでお申し込みください。
①氏名・ふりがな ②郵便番号・住所 ③ご連絡先(電話番号・Eメールアドレス)

ブログ、Facebook、Twitterやっています!

◎愛知芸術文化センター地下2階プレイガイド
052-972-0430 (月曜定休/祝日・振替休日の場合は翌日振替)

チケット ◎チケットぴあ
の主な取扱先 **0570-02-9999** (サークルKサンクス、セブン-イレブンでも購入可)
◎アイ・チケット
0570-00-5310 (祝日を除く月曜~土曜 10:00~17:00)



アクセス
[公共交通機関]
・名古屋市営地下鉄東山線または名城線「栄」駅下車 徒歩5分
・名鉄瀬戸線「栄町」駅下車 徒歩5分(オアシス21から地下連絡通路または2F連絡橋経由)
[自動車]
名古屋高速東新町出口から3分
[駐車場]
有料駐車場「アートパーク東海」(愛知芸術文化センター地下3・4・5階 約600台)

愛知芸術文化センター
AICHI ARTS CENTER
〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2
TEL(052)971-5511(代表)



お問い合わせ
愛知県芸術劇場
(公益財団法人愛知県文化振興事業団)
広報・マーケティング室
TEL:052-955-5506(直通) FAX:052-971-5541 e-mail:mkt@aaf.or.jp

『かもめ』
地点



2014年公演より Photo: 松本久木
5月9日(土)19:30・10日(日)15:00・11日(月)19:30
愛知県芸術劇場小ホール
作:アントン・チェーホフ 演出:三浦基
一般前売3,000円 当日3,500円
学生前売2,000円 当日2,500円

チケット発売:4月4日(土) お問い合わせ 合同会社地点 TEL075-888-5343

最先端のステージ続々!
愛知県芸術劇場の新企画「ミニセレ」開幕



Photo: Hideto Maezawa
6月5日(金)19:30・6日(土)14:00・7日(日)14:00
愛知県芸術劇場小ホール
振付:矢内原美邦 映像:高橋啓祐
音楽:スカンク 美術:カミケタカヤ
一般前売3,200円 当日3,500円
学生2,800円

チケット発売:4月4日(土) お問い合わせ プリコグ TEL03-6825-1223

『リアルリアリティ RealReality』
ニブロール